

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	「京都学派」基本文献の翻訳・教材作成
代表者名	藤田正勝
事業概要 (600 字程度)	<p>「京都学派」の哲学については、その認知度は高まっているが、しかし、西田幾多郎や田辺元、三木清など、核になる思想家の文献についての翻訳は必ずしも十分に行われていない。</p> <p>藤田が編集した『京都学派の哲学』（昭和堂刊）はわが国における「アジア／日本研究」に関わる基礎的文献であり、本事業では、ここに収められた基礎文献の翻訳を通して、英語圏の読者に必読文献の教材を提供することをめざした。</p> <p>『京都学派の哲学』（総頁332頁）は、西田幾多郎、田辺元、三木清、戸坂潤、木村素衛、久松真一、下村寅太郎、西谷啓治など、京都学派を代表する哲学者の基本的な文献8編と、それについての解説8編、および「京都学派」に関する付論2編を含む。本事業では、各編を専門の翻訳者に依頼した後、アメリカの日本哲学研究者に校閲を依頼し、そのあと、藤田がその訳を検討し、最終稿を確定することとしている。本年度の事業では、6～8章と付論の翻訳と4～7章までの校閲を完了し、最終稿を作成した。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本年度の事業では、上で記したように、『京都学派の哲学』（昭和堂刊）の翻訳と7章までの校閲を完了し、最終稿を作成した。</p> <p>西田幾多郎、田辺元、三木清らの文献を海外の研究者が読解することは容易ではなく、本書の翻訳を通して、日本の哲学への理解は飛躍的に高まると考えられる。また本書に収められた解説を通して、西田や田辺など、「京都学派」の哲学を正確に理解するための重要な手がかりを提供することができる。これまで海外でなされてきた「京都学派」の紹介は、正確でないものも含まれており、この点で、本書の翻訳は重要な意味をもつ。</p> <p>さらに、この事業を通して、日本文化を海外に積極的に発信していく基礎が形成されることが期待されるし、また、それはアジア諸国の人々との相互理解、そして、それを通しての相互の学問の発展にも大いに寄与すると考えている。</p> <p>完成後は、国内外で、日本文化を紹介するための教材として使用したい。また、本事業で刊行予定のシリーズ“Japanese Studies in Japan”の一冊として刊行できればと考えている。</p>